

令和元年度事業報告

I. はじめに

1. 事業概況

令和元年度の VICS 対応車載機出荷台数は 432 万台（対計画比 119.9%、前年度比 96.2%）となった。事業計画値の 360 万台は大きく上回っているが、対前年度比較で約 4%の減少となった。減少の主な要因は、新型コロナウイルス感染拡大による消費の減少であり、感染の鎮静化が見通せない中、引き続き今後の動向を注視していくものとする。

また、平成 27 年 4 月からサービスを開始した VICS WIDE に対応する車載機出荷台数は 368 万台で、VICS 対応車載機出荷台数 432 万台のうち 85%を占め（前年度 81%）、各メーカーにおける VICS WIDE 対応への切り替えが順調に進み、VICS WIDE ユーザーも順調に増加していることを確認できた。

なお、VICS 対応車載機累計出荷台数は令和 2 年 3 月末時点で 6,777 万台、このうち VICS WIDE 対応車載機累計出荷台数は同じく 1,312 万台となった。

2. 社会の動き

自動運転の実用化に向けた取り組みは、政府の SIP-adus（戦略的イノベーション創造プログラムの自動走行システム）により平成 28 年度から産官学連携で進められてきたが、令和元年 10 月よりインフラ協調型の自動運転の実証実験が国内外の自動車メーカー、大学等の参加のもと東京臨海部で始まった。この実証実験を含め、高速道路、都市部の一般道、中山間部など多様な場面における自動運転の実用化を目指した取り組みが各地で加速されている。

VICS センターが開催時の交通混雑緩和に寄与したいと考えていた東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（以下 2020 オリパラ）については、新型コロナウイルス感染が世界的に拡大する中、令和 2 年 3 月 24 日開催時期を 1 年延期することが決定された。

II. 事業遂行状況

1. 概況

令和元年度は、以下の 4 つの重点事業に経営資源を集中させ、概ね計画通りに完了させることができた。

（1）提供情報内容拡充と品質の維持・向上

プローブ情報総合化については、関東 1 都 6 県における実証実験を令和 2 年 4 月より開始することを目指し、産官学関係者の合意形成、実証実験システムの開発・検証、システムの有効性・実用性の検証等の準備を進め、3 月までに実証実験の準備を完了し、予定通り 4 月開始することとなった。

新サービスとしては、駐車場の満空情報提供の充実を目標に、臨時に設置される駐車場情報を提供するシステムの本格運用ならびに民間駐車場情報の拡充を、ラグビーワールドカップ開催前の 9 月に開始した。また、事前通行規制予告の情報提供

サービス、気象・防災情報提供サービスの拡充のため開発・検証を予定通り完了した。

(2) センター及び放送所システムの効率化・高度化

計画通り3月末までに次期システムのセンターシステム及び関東1都6県の放送所設備の稼働を開始した。関東以外のエリアについては令和3年度内を目途に順次放送所設備の更新を進める予定である。

(3) 新たなニーズへの適切な対応

VICS事業を取り巻く社会経済情勢や技術動向を調査し、VICSセンターの役割を整理した。

(4) 継続施策の改善・進化

知的財産の保守、財務基盤強化、広報（情報公開）・普及促進活動等を継続するとともに、ブランドスローガンを定めること等を通してVICSの理念・方針の継承を進めた。

2. 具体的施策

(1) 提供情報内容拡充と品質の維持・向上

①プローブ情報総合化の効果検証と利用推進

交通円滑化への寄与と利用者利便性の向上等を目的として、民間プローブ情報から道路交通情報を生成し、活用する実証実験を令和2年度から開始するための準備を進めた。

具体的には、公益財団法人日本道路交通情報センターとともに、産官学の協力を得て構成している実証実験検討会を活用して7月より関東1都6県においてプローブ情報総合化プレ実験を実施し、総合化ロジックの妥当性検証、効果検証等を進めた。このプレ実験の成果として以下を確認することができた。

- ・プローブ総合化システムが7月～11月（3,672時間）のプレ実験期間中、稼働率ほぼ100%で運用できたことを確認
- ・旅行時間及び渋滞度についてプローブ総合化により生成された値と現場計測調査（32箇所、延べ150時間）から得られた値を比較検証した結果、プローブ情報総合化ロジックが妥当であることを確認
- ・自動車メーカー、車載機メーカーが参加した車載機接続評価により「データ量」・「確度」・「ユーザー利用」の観点で実証実験が可能なことを確認
- ・ユーザー効果検証に関し、渋滞頻発箇所において旅行時間を短縮できる代替ルートを利用者に提供できるようになる等、ユーザーニーズの満足度向上に貢献可能であることを確認
- ・実証実験に向けたシステム改修において改善すべき項目を確認

これらの結果を1月の実証実験検討会で審議いただき、プローブ実証実験を令和2年4月から関東1都6県で開始することについて了承を得た。また、プローブ情報総合化実証実験が4月から始まることの広報活動として、東京モーターショー及びITS世界会議2019シンガポールへ出展するとともに、令和2年2月27日にプレ

スリリースを行った。さらには VICS センターのホームページに「実証実験スペシャルサイト」を開設し、一般ユーザーに対して実証実験の周知を促進し、ユーザーの意見を収集する体制を固めた。

なお、2020 オリパラの開催が1年延期となったが、実証実験は予定通り令和2年4月から開始することとした。

②新たなサービス実現

[気象・防災情報の拡充]

社会的ニーズの高い災害関連の道路交通情報提供について、以下の3点に関して関係機関との調整を進め、次年度以降のサービス開始の目途付けをした。

- ・大雪による通行規制が行われる場合にいち早くナビのポップアップ画面にてドライバーに規制を予告する大雪予防的通行規制予告サービス
- ・弾道ミサイル発射を想定したJアラート（消防庁が発信する全国瞬時警報システム）をナビのポップアップ画面でドライバーに配信するサービス
- ・地震、大津波などの緊急災害通報を準天頂衛星みちびきを介してカーナビに配信する災危通報サービスのガイドライン作成

[規制予告情報の新設]

2020年オリパラ等開催時の運用開始を見据え、マラソン等で大規模な通行規制がかかる場合にその情報を事前にドライバーに伝えるための規制予告情報を提供するシステムの開発及び関係者との合意を完了し、次年度からのサービス開始を可能にした。

[駐車場満空情報の拡充]

9月より観光地・イベント等で設置される駐車場の満空情報提供の拡充を開始した。また利用者からの満空情報が提供される施設を増やしてほしいとのニーズに対応するため、民間運営の駐車場の満空情報の提供も開始した。ラグビーワールドカップ2019日本大会が開催された9～11月には、競技場周辺における道路混雑緩和のために、これらの駐車場情報を提供した。

③情報の信頼性向上

VICS リンク年次更新マニュアル等を作成し、情報源・管理者にリンク更新時期の適正化に向けた協力を要請し、VICS リンク更新遅れによる渋滞情報の欠損を減らす活動を継続した。

また、前項の新サービスやプローブ情報総合化実証実験により FM 多重放送の送信容量の逼迫が予想されるため、既存の送信データ量の削減・送信優先順位の見直しを実施し、適用を開始した。

(2) センター及び放送所システムの効率化・高度化

①次期システムの開発・運用

前年度に引き続き次期システム（センターシステム及び放送所設備）の開発を進め、計画通り3月末までに関東1都6県（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県）において次期システムによるサービス運用を開始し、次年度のプローブ情報総合化実証実験の基盤も確保した。

センターシステムについては、ベンダーでの開発、京橋センターでの結合試験、総合試験の手順を経て整備を進めた。具体的には、6月に仮想化基盤（京橋）の構築を完了、12月にアプリの総合試験を完了、同時に12月に第2センターの仮想化基盤の構築も完了し、1月から京橋センターシステムの稼働を開始した。

放送所設備については、関東1都6県の8基幹放送局の更新を進め3月までに完了した。関東以外の放送所の設備更新も、次年度から順次進め令和3年9月までに完了させる予定であったが、2020オリパラの開催が1年延期となったことにより、計画の見直しが必要となり次年度検討することとした。

②既存システムの維持改善・効率化

災害対応力の強化策として、VICS FM 多重放送所への通信回線を、従来の光回線（主/副）に加え、衛星電話回線（ワイドスターII）によるバックアップ回線の追加を進めてきたが、今年度は残る6局（函館、帯広、旭川、釧路、北見、鳥取）を整備し、全国55の放送所すべてで導入が完了した。

加えて、国内ではVICSセンターのみが放送しているFM多重放送について、技術継承を目的とした保守・運用の委託先の技術者に対するテクニカル・ワークショップを開催した。また、放送所設備の安定運用を実現するため、老朽機器のオーバーホール、放送所設備の延命対応と予備品の購入を計画的に実施した。

（3）新たなニーズへの適切な対応

①VICSセンターの役割と対応に関する調査研究

将来のモビリティ社会を見据えて、VICSとして可能性のある事業方向性の検討を進めた。将来のVICSサービスの方向性として、「渋滞ゼロ社会へ。」の取り組みを続けることを使命とし、「多種で大量なデータ」を集め、「高度に分析処理する技術」を用い、道路交通情報の高度化を進め、渋滞の無い将来のモビリティ社会実現に貢献することとした。

②時代の変化に応じた外部環境・ニーズの把握と対応

前年度に引き続き、米国、欧州、中国におけるMaaS&Smart city 交通情報実態調査を実施し、関係者で共有を図った。

また、全国11,700人を対象にしたVICS認知および交通情報ニーズのWEB調査を前年度に引き続き実施した。VICSの認知度、渋滞カバーエリアについては、情報提供エリアの拡大と精度の向上を望む声が強く、またカーナビとスマートフォンのナビゲーションアプリの利用状況については、若年層（20~39歳）は今後のスマホの利用意向が他の年齢層より多いものの、利用転換の大きな変化は確認できず、昨年と同様の結果となった。

（4）継続施策の改善・進化

①知的財産の確保および財務基盤強化

VICS技術情報の管理対策を徹底するため、前年度に引き続き契約先におけるVICS技術情報の管理状況に関する調査を実施し、課題確認と改善を契約先とともに進めた。

②広報・普及促進活動の一層の推進

道路交通情報を選べる時代に変化しつつあることを踏まえ、今後も安心して VICS を使い続けてもらえるように、5月にブランドスローガン「渋滞ゼロ社会へ。」を制定し、VICS を利用することで得られる嬉しさ、将来に向けた改善活動、渋滞減少などの社会貢献実績等を多くのドライバーに知ってもらう広報活動を推進した。

また、次年度に関東1都6県で予定しているプローブ情報総合化実証実験に多くのドライバーが関心を持ち参加してもらえるよう、ホームページ内に「実証実験スペシャルサイト」を新設し、そこへの誘引策（雑誌広告、SNS への広告配信等）を実施した。

各種イベント対応として、ITS 世界会議 2019 シンガポール、モーターショー（東京、名古屋、大阪、福岡、札幌）に出展し、VICS のブランド価値や VICS センターの取り組み（特にプローブ情報総合化実証実験に向けた準備活動）を内外に発信した。

ステークホルダー向けの情報発信（情報公開）として、月刊機関誌 VICS NEWS の発行、事業報告会の開催（7月23日、参加者：114人）、視察見学者対応（視察者数：年間39組、486人）等を継続推進した。また、ユーザーの声を収集するために、問い合わせ窓口（コールセンター）、VICS サポーター制度を引き続き運営し、VICS 情報の改善等に努めた。特に、問い合わせ窓口については、次年度のプローブ情報総合化実証実験を体験したユーザーの声を集めやすくするため、暫定的に土日祝日も対応する準備を整えた。

③業務管理等

事業計画から展開・具体化した業務日程計画（アクションプラン）により進捗管理を行うことで事業計画の進捗状況の「見える化」を徹底し、「プローブ情報総合化実証実験」、「次期 VICS システムの開発」等の年度を跨ぐ大規模施策の進捗状況の共有に役立てた。

また、職員が交替しても VICS センターの基本方針が円滑に理解されるように、第4次中期事業計画の中で示した5年後に目指す姿、事業運営方針や前年度制定した行動規範、ブランドスローガン「渋滞ゼロ社会へ。」等を新規赴任者等に伝えていく体制を確立した。

Ⅲ 事業計画遂行のための会議の開催

(1) 理事会

- ①令和元年 5月27日 令和元年度第1回理事会
第1号議案 平成30年度事業報告(案)並びに平成30年度収支計算書(案)及び平成30年度計算書類(案)承認の件
第2号議案 平成30年度公益目的支出計画実施報告書(案)承認の件
第3号議案 評議員候補者7名推薦につき承認の件
第4号議案 令和元年度定時評議員会招集の件
以上の審議が行われ、いずれも原案通り承認された。
報告事項 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について

- ②令和元年 7月1日 令和元年度第2回理事会
第1号議案 常務理事1名選定の件
書面審議により原案通り承認された。

- ③ 令和元年11月14日 令和元年度第3回理事会
報告事項 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について

- ④ 令和2年 3月17日 令和元年度第4回理事会
第1号議案 令和2年度事業計画(案)並びに収支予算(案)承認の件
第2号議案 組織規程改定(案)承認の件
第3号議案 就業規則等改正(案)承認の件
第4号議案 評議員選定委員会設置規定改正(案)承認の件
書面審議によりいずれも原案通り承認された

(2) 評議員会

- ① 令和元年 6月20日 令和元年度定時評議員会
第1号議案 平成30年度計算書類(案)承認の件
第2号議案 理事2名選任の件
第3号議案 定款第5条第4項に基づく評議員会の定め制定の件
以上の審議が行われ、いずれも原案通り承認された。
報告事項 評議員交代について
平成30年度事業報告について
平成30年度公益目的支出計画実施報告書提出について
令和元年度事業計画及び令和元年度収支予算について

- ② 令和元年7月19日 令和元年度臨時評議員会
第1号議案 理事1名選任の件
書面審議により原案通り承認された。

(3) 事業報告会

賛助会員を始めとするステークホルダーに対する情報公開の一環として、前年度の活動状況、重要テーマについての進捗状況などを報告した。

- ① 令和元年 7月23日 令和元年度事業報告会（通算第7回）
- 報告テーマ1 平成30年度 概況報告
- 報告テーマ2 情報提供内容拡充と品質の維持・向上
- 報告テーマ3 次期 VICS システムの開発状況
- 報告テーマ4 ネットワークの強靱化
- 報告テーマ5 調査概況
- 報告テーマ6 行動規範の取り組み状況
- 報告テーマ7 広報・普及促進の活動報告

(4) 事業懇談会

- ① 令和元年 5月21日 令和元年度第1回
- ② 令和元年11月 1日 令和元年度第2回
- ③ 令和2年 2月28日 令和元年度第3回

(5) 車載機連絡会

- ① 令和元年 5月15日 令和元年度第1回（通算第68回）
- ② 令和元年 8月28日 令和元年度第2回（通算第69回）
- ③ 令和元年11月 6日 令和元年度第3回（通算第70回）
- ④ 令和2年 2月26日 令和元年度第4回（通算第71回）